

文化の風が吹くまち ちくしの
文化薫道

問い合わせ先／文化情報発信課(歴史博物館内)
☎(927)8419

「其の二十一」
地域を見守る木

立明寺のタブノキ

のびやかに枝を伸ばし、青々と葉を茂らせた大木。今回はとある個人宅の庭先で大事にされた、地域を見守ってきた「立明寺のタブノキ」についてご紹介しましょう。

この木がいつ芽を出したのか定かではありませんが、大き

や樹皮のザラつきなどから老木の域に入っているようです。樹高が16・4mあり、県内で有数の大木であるため、平成13年に県の天然記念物に指定されました。その際に幹回りは、標準が1mであるのに対して4・3mもありました。昨年計測した際には、さらに約80cmも成長しており、今後は上に伸びるのではなく横に大きくなっていくようです。



色づく新芽

アボカドに似た味がするといわれています。そして、冬の間に春へむけて力を蓄えるのです。

タブノキは全部が余すところなく利用され、人々の暮らしに深く関わっていたようです。木材は緻密で強く、耐水性や耐塩性があるため、船や建具に使われました。樹皮は煎じて染料となり、その発色は赤みがかつた美しい茶色です。樹液は粘性があり、これを乾燥させた「タブ粉」が蚊取り線香の素材になりました。

立明寺のタブノキがなぜここに立っているのか、その理由は分かりません。ひとつ確かなことは、変わりゆく風景の中で、これからも地域に根差し、人々の営みを静かに見守ってくれるということでしょう。



地域を見守る大木「立明寺のタブノキ」

タブノキの一年は、常に緑の葉を茂らし変化がないように見えませんが、実は刻々と成長しています。葉は先がとがった卵形で、表面は皮を磨いたようにつやつやしています。しかし、春に出てくる若葉はうっすらと赤く、同時に黄緑色のごく小さな花が咲きます。その後1cm程度の赤い実となり、夏に黒く熟します。この実は「説には



筑紫野市ホームページ
<http://www.city.chikushino.fukuoka.jp/>



筑紫野市フェイスブック
<http://www.facebook.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市ツイッター
<http://twitter.com/ChikushinoCity/>

